



美しく、そして美しくなった私

● 大井ひろみ

毎日読む新聞に「高齢化社会」
 ・「在宅介護」・「人材不足」
 のような文字が目につきはじめました。初めは特に気になりませんでした。初めは、文書を読むにつれて次第に考えさせられ、不安になりました。家族のこと、そして自分が老いること：健康や介護について、あまりにも無関心で無知な自分には、何もできないから学び、いつかは人のお手伝いが少しでもできればと思いい参加させていただきま

三軒のお宅に伺い、患者さんは皆、目的や向上心を持っていることを知りました。この向上心を持つということですが、患者さんと家族、つとということが、患者さんと家族、そして介助者にとっての共通な課題で、介護の基本なのではないでしょうか？病気自体変わらないことはわかっていても、心優しくやさらかに日常生活を送り愛や優しさを感じ、それに応えたい気持ち、また作業所に通う人は、少しでも多くの仕事を覚えたい、それぞれ自分にあった向上心の大切さを感じました。

もうひとつ感動したことは、サービス協会の介助員さんや看護婦さんと患者さんとの間の信頼関係です。お互いが本当に信頼しあい自分をみせて本音で付き合う。容易い事ではありません。「こんにちは」と笑顔で始まり、笑顔で受け入れられ患者さんと家族の方の喜怒哀楽を感じ、また笑顔で「今度はいつ来るの」・「また来て」

の声を後にする。二時間ほどの短い時間ですが、皆さんの努力や意欲が、私にも伝わってきました。変わってしまわない信頼、時には厳しく、時には優しく、その時々病状や精神状態によって、適確に介護される看護婦さんの判断の素晴らしさを勉強させられました。同時に私達が日常生活の忙しさにより忘れかけていたものを改めて教えていただきました。優しさ、思いやり、真心、誠意、感謝、喜び、悲しみ、これらの美しい感情を大先輩である老人に学びました。私は、介護に関する資格がないので医療や専門的なことはわかりませんが、これから先、障害者に限らず、人と社会と接していくうえで、大切な愛を知りました。体験学習を終えて、参加する以前の私よりも人間として少しだけ優しく美しくなったのではないかと自尊しています。この気持ちをいつまでも忘れぬようがんばります。ありがとうございました。



協会職員の努力に感銘

● 庄司トク子

加する動機でした。

そこでは、個々の豊かな人間性と健全な精神の調和、それにノーマリゼーションの確認などを十分に考慮したうえで、利用者や家族の方々から、努力と意欲を引き出すための励ましや、声かけが、創意豊かな工夫によりおこなわれていました。

知りました。

サービス協会の職員の皆様そして介助ボランティアの皆様方も健康にはくれぐれも注意して、これからも頑張ってください。
ご指導本当にありがとうございます。

十一月十一日から二十二日まで
の間に、三浦市保健福祉サービス
協会で実施される各分野の在宅支
援事業、家庭介助員派遣事業、訪
問看護事業、訪問機能訓練事業、
そしてハンディキャブ運行事業の
それぞれの専任者に同行し、在宅
介護を体験させていただきました。
心と心のふれあいを大切にしたい
という気持ちで、体験学習に参

こうした、個々の「生活」状況を活性化させていく努力を、サービス協会の職員の皆様や、介助ボランティアの方々より学び得たことに感謝いたします。
新聞紙上により厚生省が、一九九三年から一九九九年を目標に、ホームヘルパーの派遣を増強しようという計画を持っていることを

『ノーマリゼーション』
ノーマリゼーションとは、ハンディキャップを抱える人々が、住み慣れた家庭や地域の中で『ふつう』に生活できるような環境を整えることを言います。
遠くデンマークから輸入されたこの言葉こそ、これからの地域福祉、特に高齢者福祉対策にはなくてはならないものとして注目を集めているノーマリゼーションの理念なのです。
今では、福祉の仕事に携わっている人々が、合言葉のように使っています。



介助ボラ体験学習 を終えて

● 清水敏枝

護に対する心構え、介護実技、老人ホーム実習と多くこのことを学ぶ機会と、たくさん仲間ができました。

これまで学んだ知識、実技を確かなものとしていくために、現在三浦地区受講者でグループをつくり、施設実習をした美山ホームでボランティアとして介護活動をさせていただいています。

今回は、サービス協会主催「介助ボランティア体験学習」を学ぶ機会に恵まれました。実際に在宅サービスを利用している方々を専任者に同行し福祉の現場でどのような援助活動がおこなわれ、どのような援助活動が求められているのか知りたくて参加しました。

訪問看護という仕事は技術面だけではなく、在宅療養者、介護を

する家族を取り巻く環境状況によって内面的な援助が看護婦さんに求められていることを学びました。

家庭介助としては、独居生活を余儀なくされたお年寄は、話し相手を心待ちにしているので「聞いてあげよう」という気持ちで接すること、そして心の余裕を持ってもらい少しでもご自身の力を引き出して自分のことができるような援助を心掛けサービスを実践していることを学びました。

四日間の体験学習をとおして精神的に励まされ勇気づけられたことに感謝しています。私もできる範囲で協力ができればと願っています。

三浦市に引っ越して、一年目に田舎の母が入院となり手伝いに伺ったのですが、ベッドの上にて起こして座る体勢をとるにも知識のない者が介助するため母には辛い思いをさせてしまった方が多かったと実感しています。

ではどうしたらと思っていた時、神奈川県立婦人総合センター主催の介護技術講習会（三浦・横須賀地区）に参加させていただき、介



在宅介護の現状を知る

● 鈴木妙子

そんな私達を見て頑張ろうという
気持ちはなかったようでした。

それが、私にとって一番の成果だ
ったのではないでしょうか。

良い介護関係を作るには、介護
者の力量が問われるのはもちろん
のことですが、介護を受ける方自
身も、積極的に可能性と対面する
必要があります。しかし、介護す
る側に力量を越えた負担がかかっ
た場合、それを助けてくれる補助

自分の回りを見渡してみても、
資格や経験のない私でも、できる
ことが沢山あるのに気付くよう
なり、今まで何をしてきたのかと
恥ずかしくなりました。

介護という援助は、介護を「受
ける——する」という人の行為が
常によどみなく連続する関係です。

者が必要となってきました。それが
社会福祉協議会の人達や、ボラン
ティアの人達なのです。

今後私自身の課題として、子供
もまだ小さいので、地域でできる
ことをしていくつもりです。当面
は、近所に住む八十四才のお年寄
りの車椅子の外出介助を、お手伝
いするつもりでいます。

私の父と姉は障害者で、現在母が
二人の面倒をみています。父が三
年前脳梗塞で倒れた時、家族の気
持ちがバラバラになりました。四
六時中介護のことが頭から離れず、
どうしたら一番良い状態にもって
いけるのか、わからない日々が続
きました。介護される側の父も、

もちろん、介護に関する問題だ
けが、今の福祉の全てではありま
せん。障害者、老人、一人暮らし
の方など、いろいろな人がいます。
そして、求めていることもいろい
ろです。今回の体験学習に参加さ
せていただいたおかげで、そんな
ことを理解することができました。

経験は、心を込めて積み重ねて
いくことにより、次第に成果を挙
げていくのであり、肩肘を張らず、
私のできる範囲でお手伝いをさせ
ていただくつもりです。



不安と緊張の中で 出会った笑顔

● 鈴木智子

不安、緊張、興味、そんな気持ちが入り混じった体験学習。しかし、反省させられることばかりでした。

受けようと思った動機も不純で、人にすすめられるままに、何の勉強もせず、また、しっかりとした考えも持たないで受講しました。どんなものだろうって気持ちだったのです。ですから、反省会の時に回りの方の立派な考え、心構え

に圧倒されて、その場にいるのが恥かしいくらいでした。

でも受けてみて、良かったと思っただのは素晴らしい笑顔に出会えて感動したことです。

訪問先のお宅に受け入れてもらえるかどうか心配でしたが、「おはようございます」とあいさつすると、待ちわびておられたかのように、お願いしますと快く招いてくださいました。

二時間くらい介護の中で、いろいろなことを見極めて行動に移され、優しく接しておられる介助員の方のお姿を拝見させていただいて「すごい！」その一言でした。そして帰り際には手を握り、「また来てね。今度はいっ」と言葉にならない声で涙流されるお年寄りの方に笑顔で応えられる介助員の方。そ

こには、目には見えない信頼と愛情の絆が見えたようでした。甲斐田先生がお話しくださった「待つていられることが嬉しい」まさしくそれでした。

まだまだ、ボランティア活動に一步も踏み出せないでいる自分ですが、この体験学習を基に、これから少しずつでも自分を変えていくことができ、何かお手伝いできることをしようではなく、させていたただきたいという気持ちが生まれればと思います。

体験学習にあたって、いろいろお話ししてくださったり、お世話になりました社協の方々、訪問先の皆様ありがとうございました。